

竜門ダム見学会に日隈市議も参加

ダム導水路
漏水問題



▲ 竜門ダムの構造や大雨でダム貯水が満杯になった時の緊急放流についてダム職員から説明を受ける市議ら（11月17日、菊池市）

津江水資源環境保全組合は17日、竜門ダム（菊池市）でダム見学会を開催。ダム導水路による津江地区の地下水の枯渇（1988年）から現在の状況を説明しました。三苦誠議長ほか6名の市議、中野哲朗県議らも参加し、意見交換を行いました。

竜門ダムは、熊本県北部で唯一の水ガメとして1973年から建設工事が始まり、2002年に完成しました。

国は、竜門ダムの貯水量を確保するため、下釜ダムから水を引く津江導水路を建設（1987年から）。建設工事が始まった翌年から地下水の大量漏水が発生しました。国は、近くの谷川から引いた水を農業用水として供給。2003年に「漏水の減量に努める」との確認書を上津江村、中津江村と交わし、漏水箇所をふさぐ大規模な対策工事を行いました。漏水は止まっています。

津江水資源環境保全組合は、地下水の枯渇被害を受けた世帯約80戸でつくられた組合です。

同組合は22年3月、上津江村が国と交わした「津江導水路関連漏水対策施設の維持管理に関する協定書」を今後も遵守することを確認する書面を国土交通省九州地方整備局、日田市、同組合の3者で結びました。

竜門ダム見学会では、ダム管理支所の石橋支所長が、防災情報施設のパネルや模型を使って説明。職員の案内で、ダム内部の検査トンネルを通り、外側からダムを見学。大雨でダムが満杯になった時の緊急放流などについて説明を受けました（上の写真）。また、津江導水路の中を地下水の漏水が流れる状況を撮影したビデオを見ました（ダム職員が事前に撮影）。

日隈市議は「津江導水路の中を撮影したビデオを市民に見てもらい、現状を知ってもらふ必要がある」と提案しました。

大分県に予算要望を届ける

日本共産党
県内議員団

来年度も高校生の子ども医療費の県助成を確保する

日本共産党の大分県内議員団は18日、164項目の県民要望について県執行部と意見交換を行いました。堤栄三、猿渡久子両県議をはじめ16名の議員、各団体から8名が参加。

県福祉保健部との意見交換では、高校卒業までの医療費助成制度を大分県でつくることを求めました。県の担当者は「今年度から高校生年代を県の助成対象に加え、市町村の制度拡充を後押しした結果、日田市以外の17市町村で高校生年代までの入院医療費助成が実施されている」と答えました。

中津市の川内市議は、「高校1年生が7月、熱中症で救急搬送された。治療費の自己負担が8

千円かかるところを500円で済んだと、高校生のお母さんから感謝された」と話し、「継続して予算を確保してほしい」と訴えました。県の担当者は「来年度も18市町村分の県の助成額を確保する。日田市長にも、県の助成を活用して高校生までの医療費助成を実施するよう働きかけていく」と答えました。日隈市議は「市長に高校生までの医療費助成を強く迫りたい」と決意を述べました。



▲ 来年度の大分県予算に対する県民要望を届ける堤栄三県議（写真右端）ら日本共産党県内議員団（11月18日、大分県庁委員会室）